

ACT 通信

栃木県立足利中央特別支援学校

「あかるく つよく たすけあう子」の育成を目指し、地域とともにある学校として今年度コミュニティ・スクールがスタートしました

【目指す学校像】

○安全・安心な学校

○児童生徒が意欲的に学べる学校

○地域社会に開かれた学校

○教職員がやりがいを感じられる学校

安心・安全

- 日常的に安心・安全な教育環境を多方面から整備する
- 児童生徒の実態に応じた効果的な防災教育・訓練を実施する

教育の充実

- 学校内外において ICT 機器を効果的に活用し、主体的な学びや個別最適な学びを推進する

家庭や地域との連携

- 家庭や地域との連携・交流・協働によって「地域に開かれた学校づくり」を実現する

教職員の専門性向上

- 児童生徒一人一人の「わかる＝楽しい」授業を実現するための指導力、授業実践力の向上を図る

コミュニティ・スクールでは「安心・安全」と「家庭や地域との連携」に力を入れます

6月17日(火)に本校を会場に第1回学校運営協議会(コミュニティ・スクール)が開催されました。本校校長を含む13名の委員の皆様にご参加いただき、コミュニティ・スクールとしての第一歩として本校について知っていただく機会となりました。また、栃木県教育委員会事務局特別支援教育課指導主事 大阿久貴志様、安足教育事務所ふれあい学習課長 塩原基寧様にもご出席いただき、塩原様には、「コミュニティ・スクールについて」と題し、本会の目的や意義をお話いただきました。



【次 第】

- 1 開 会
- 2 栃木県教育委員会事務局挨拶
- 3 講話「コミュニティ・スクールについて」
- 4 委員紹介
- 5 会長および副会長選任
- 6 議 事
 - (1) 会則の制定について
 - (2) 学校運営方針について
 - (3) 学校評価及び今後の予定について
＜授業見学・休憩＞
 - (4) 学校・家庭・地域の連携について
～進路指導の視点から～
 - (5) 意見交換（ワークショップ）
- 7 閉 会



安足教育事務所の塩原様の講話の中で、特別支援学校の課題として、①教員の専門性向上、②支援体制の整備、③共生社会の実現が挙げられ、同時に地域の課題として、地域社会のつながりや支え合いが希薄になっている点が示されました。そして、自分たちの力でより良い学校、より良い地域を創り上げていくためには、「地域とともにある学校」が必要だとお話いただきました。

令和7年度の日程

- | | | |
|-----|-----------|---------------|
| 第1回 | 6月17日(火) | 学校概要説明・授業見学 |
| 第2回 | 8月5日(火) | 学校安全に関する職員研修 |
| 第3回 | 10月15日(水) | 研修の振り返り・協議 |
| 第4回 | 1月23日(金) | 学校評価(学校関係者評価) |

令和7年度学校運営協議会委員の皆様

- | | |
|----------|---------------------|
| 大川 英規 様 | 北郷公民館館長 |
| 阿由葉 寛 様 | 社会福祉法人足利むつみ会理事長 |
| 伊藤 正徳 様 | 卒業生保護者 |
| 舟崎 陽子 様 | PTA 会長 |
| 岩崎 和則 様 | 元足利市立けやき小学校長 ◎会長 |
| 三品 文彦 様 | アキレス株式会社足利総務部長 |
| 川俣 聡司 様 | 社会福祉法人愛光園理事長 |
| 遠藤 洋 様 | 栃木県立足利特別支援学校長 |
| 林 博子 様 | 安足教育事務所スクールサポーター |
| 赤坂 理恵 様 | 社会福祉法人とちのみ会社会福祉士 |
| 塚田 美智代 様 | 足利市立大月小学校長 |
| 大島 裕子 様 | 栃木県地域学校協働活動推進員 ○副会長 |
| 佐藤 彰子 様 | 学校長 |

コミュニティ・スクールについて

学校と地域のビジョンや目標の共有

ビジョン・目標が共有されなかった場合

ビジョン・目標が共有された場合



学校運営協議会委員の心構え「熟議」が重要です！！

- 「熟議」による活発な議論で、的確に多くの人の意見を反映しましょう。
- 関係者がみな当事者意識をもち、子どもたちがどのような課題を抱えているのかという実態を共有しましょう。
- 地域でどのような子どもを育てていくのか、何を実現していくのか目標・ビジョンを共有しましょう。
(塩原様の講話より)

学校・家庭・地域の連携について～進路指導の観点から～

校長より、学校運営方針が示され、今年度の重点目標が共有されました。また、進路指導部主事より本校の進路指導について説明がありました。

進路決定までの流れを、1年次は「働く意識を高める」（作業学習・校内実習・就業体験学習）、2年次は「自分の適性を考える」（就業体験学習・実習）、3年次は「自分の進路を決める」（実習）とし、希望する進路実現に向けた段階的な取組を報告しました。また、小学部からの「12年間の進路指導」が本校の特色であり、基本的生活習慣の確立が就労後の生活の安定につながるため、日々の子どもの活動全てが進路指導であると話しました。

令和6年度の実習は、企業33社、福祉施設49事業所に御協力いただいております。生徒の自立と社会参加に向けて、多くの企業や福祉施設の皆様のお力をお借りしながら進路指導を進めている現状を委員の皆様と共有しました。

また、第1回コミュニティ・スクールが行われた日には校内実習が行われており、普段の作業学習との差別化を図るため、生徒が実習開始の放送を入れたり、進行役を務めたり等、主体的な活動を行っている様子を見学していただきました。

高等部卒業生・・・36名

○一般就労・・・10名

・製造業 5名

・小売業 1名

・事務 1名

・清掃 3名

○福祉サービス利用・・・25名

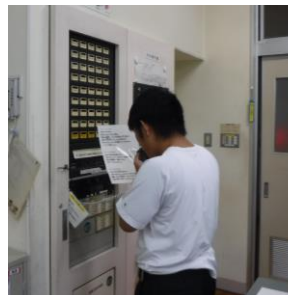
○その他・・・1名



←進路指導主事による説明

放送を入れる生徒（左）→

校内実習の当番表（右）→



ワークショップ

委員の皆様には、足中特コミュニティ・スクールのねらいを共有した上で、安足教育事務所の塩原様によるワークショップに参加していただきました。テーマは「私たちは地域の子どもたちの安心・安全のためにこんなことができる！」とし、足中特の子どもたちのために、どんなことができるかをそれぞれのお立場で挙げていただきました。

どのグループも付箋には様々なアイデアが記され、活発な意見交換がなされていました。以下に、いただいたご意見をいくつか紹介させていただきます。



通学時の
安全
見守り活動

情報発信や交
流を通して、学
校をもっと知っ
てもらう

災害時に備え
た関係機関と
の取り決め

保護者や教員
の願いや悩み
の共有

皆様に課題について御意見をいただき、安心・安全の観点では、通学時や災害時の学校だけでなく地域を巻き込んだ体制の確保を御指摘いただきました。また、「卒業後」といったキーワードも多く挙げられ、地域の理解を得るための取組や、地域との交流の機会を足中特コミュニティ・スクールとして、検討していきたいと感じました。子どもたちが社会で生きていくために必要な力を育むための手立てを考える場としてコミュニティ・スクールを活用していきたいと考えております。委員となられた方々はもちろん、地域や保護者の方々にも御協力いただく場面があるかと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【おわりに】 次回コミュニティ・スクールは8月5日（火）を予定しております。今年度本校は「学校安全総合支援事業」の拠点校となっております。その一環として、学校安全に関する職員研修（土砂災害避難・引渡しシミュレーション）を実施し、委員の方々にも研修に御参加いただきます。実践から課題を洗い出し、より安心・安全な学校を目指していきたいと考えております。

学校運営協議会委員の皆様には、引き続き本校の教育活動への御理解御協力をお願いいたします。また、本協議会の会長・副会長をお引き受けいただきました岩崎様、大島様には大変感謝申し上げます。「ACT 通信」は、地域や保護者の皆様に本校の取組を御理解いただきたく引き続き発行してまいります。足中特は、子どもたちのひとみ輝く未来のために行動します！（文責 早川）